

## 第2回 奈良県外国人観光客交流館あり方検討委員会議事概要

- 1 日 時： 令和7年7月18日（金）10:00～12:00
- 2 場 所： 奈良県庁 本庁舎5階 第一会議室（大・東）
- 3 出席者：（委員）北口委員、下山委員、中山委員、野澤委員、二神委員  
（事務局）奈良県観光局 山中局長、吉岡次長  
奈良県観光戦略課 辻課長 他
- 4 公開・非公開の別： 公開
- 5 議事
  - （1）開会の挨拶 山中局長
  - （2）奈良県外国人観光客交流館（猿沢イン）のあり方検討について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 意見交換

<委員からの主な発言は、次のとおり>

### 【外国人観光客交流館の廃止について】

・外国人観光客交流館運営委託契約終了の令和8年4月30日をもって、当館を廃止することが望ましい。

### 【外国人観光客交流館閉館後の活用について】

・当館の場所性を活かして、エリア価値を高める活用に重視することが望ましい。

・閉館後の活用にあたっては、赤字を出し続けないよう、課題として認識しておく必要がある。

・当館の活用にあたって、奈良県観光課題である「安い・浅い・狭い」のすべてを解決することは難しいと考えるが、強いて言えば、「浅い」の観点で有効に活用できるのではないかと。

・外国人観光客にとって、地域の文化や日常生活に触れ、地域を「深く」理解すること、観光の魅力である。

・当館周辺には、住居が近くにあり、周辺施設（興福寺等）と接続性があるため、地

域交流は当館閉館後の活用の中で大切な要素となる。

- ・奈良県観光課題である「浅い」は、夜に過ごすところがないことが影響していると考えられる。

- ・当館はならまちのゲートウェイに位置しているため、宿泊施設として検討していく場合、例えば、町家を活用した分散型ホテルが考えられるのではないかと。その際は、当館敷地内に、ホテルのレセプション機能及び観光客が様々な情報を仕入れることができるような交流場所を持たせるのがよい。

- ・民間の力を借りる場合は収益性が重要になってくるため、宿泊施設もひとつの候補となりうる。ただし、利益優先でなく、長く地域と共存していく観点も踏まえて欲しい。

- ・奈良県の特徴は、国宝や世界遺産といった他で得ることができない「本物」に触れられる場所が多くあることであり、それを活かせるのがよい。

#### 【答申（案）の方向性について】

- ・答申（案）のとりまとめにあたり、閉館後の活用については、具体的にどのような種類の施設にするかといった提言ではなく、例えば、当館の立地を活かして地域交流に繋げたり、この地域の価値観を上げるといったような、活用の方向性を示していきたい。

次回 答申（案）について